GOOD DESIGN AWARD 2017

応募カテゴリー/A203 公共用の建築・施設
一般名称/障がい者福祉施設
事業主体名/NPO法人熱海ふれあい作業所
応募者/NPO法人 熱海ふれあい作業所 荻沢洋子
/MNoKa Architects 牧野宏一
/宮田構造設計事務所 宮田雄二郎

GOOD DESIGN AWARD 2017

場所：静岡県熱海市網代529-84
設計・監理：牧野宏一 / MNoKa Architects
構造設計：宮田雄二郎 / 宮田構造設計事務所
施工：川口保・横田一郎 / 大同工業
写真：吉次史成 / 竣工写真
構造：鉄骨造
階数：2階建 / 既存建物の改修・倉庫の増築
敷地面積：1254.14㎡/延床面積：347.32㎡

GOOD DESIGN賞 2017 -応募情報より抜粋-

応募カテゴリー A203 公共用の建築・施設
一般名称 障がい者福祉施設

1.応募対象の特徴を簡潔明瞭に記述してください。
障がい者福祉施設は閉鎖的な印象で内部の活動が想像しづらい現状がある。かつての「措置を行うために必要とされている機能」を単に配置するような施設的なつくられかたに原因があるのではないか。現状の支援サービスの中心にある「食」をテーマに意図を明確にし、つくりなおす。提供しやすい本格的な厨房カウンター、 熱海の景観の一部にいるような気持ちよく食すための吹抜けや大きな窓。自然をダイナミックに感じる展望カフェのように改修した。日本全国のプレハブ箱もの施設をカスタマイズすることへの可能性を感じつつ、つくりながら「ひらく」ための取組みを仕掛け、NPO法人にとって改修工事という大勝負を最大化する事を目的としている。

2.背景
敷地は熱海らしい海と山の風景に囲まれている。障がい者施設を取巻く法律が改正されたこと、利用者が増えたこともあって既存の建物と使い方が大きくすれ違っていた。身体・知的・精神の3障がいを受け入れる施設でありながら、主要な更衣と食堂の機能は現場仮設事務所のような施設の2階にあり、危険で使いづらかった。35人分の調理スペースは4帖程。ミニキッチンには寸胴が転んでしまいそうな置型のコンロが並んでいた。積載荷重の増加により床の揺れを不快に感じたり、エアコンは壊れて断熱も効いてない感じがあった。しかし、漁港から大きな魚をもらったり、地元の新鮮な野菜を頂くことが日常で、食材はとても豊かだった。まともに3食摂れない家庭環境であったり、暑くて寒い外での作業があるからこそ利用者はここでの「食」をたのしみとしサービスの根幹をなしていた。「食」することの快適性と、きちんとしたサービス提供が可能な建物が望まれていた。

3.デザイナーの思い
閉鎖的な印象の施設を刷新するため、できるだけ展望カフェのスペースが建物を専有するように改修している。「食」のための机と椅子が事務スペースになったり、更衣室や相談室を出来る限り薄く設計している。箱型プレハブに対し、水平・垂直方向に大きく開口部を設けており、吹抜けは、外階段を内部階段とすること、引算の手法による耐震化を図っている。窓からは立体的に海や山の風景を展望でき、周囲のゆったりとした景色を取り込んでいる。また、現場で手加工の可能な木部材で既存軽量鉄骨を補強したり、ユニットパネルを横断する大きな開口部、耐候性、止水性を向上させるために、既存外壁パネルの上からルーフィングや外壁を追加施工しており、ローコストの範疇でプレハブの性能を補完するためのカスタマイズを行っている。日本全国に同様なプレハブ施設は非常にたくさん存在しているが、今回の取り組みがひとつの参考事例となる事を期待する。

4.これまでの実績やその他の特徴
2016.9 ふれあいラジオ/雨上がりのにじ：2020年オリンピック・パラリンピック文化プログラム静岡県推進委員会モデルプログラムとして認められる。2016.10 クラウドファンディングに登録し66万9000円を達成する。2017.3 ふれあいラジオ/雨上がりのにじの公開収録を行うイベント会場として建物を活用。2017.8 熱海市社会福祉士会のセミナーを開催/司法福祉について 2017.11~ 施設として利用していない夜間や休日の時間帯をレンタルスペースとして地域に提供していく事も検討中。